

7月28日 AM6:30 豊科駅北、県安曇野庁舎駐車場に、参加者16名が集合。貸切バスに乗り、一ノ沢登山口へ向う。AM7:30 登山口から一列縦列で登山開始。天候は晴模様、しかし上空は雲が覆い稜線は望めない。登山口から10分、樹齢400年の榎ノ木を祀る「山の神」で手を合わせ、登山の安全を祈る。ここから溪流左岸沿いの森林帯の中、ウグイス、コマドリが鳴く緩やかな登りの登山道を進む。



ゴゼンタチバナ



ニッコーキスゲ



常念乗越と天を突く槍ヶ岳。

森林帯の中、緩やかな登りの登山道を進む。

2時間程で、一ノ沢支流が合流する河原に登り出る。小休止後、河原の右岸そして左岸の急坂を登り、クルマユリ、ニッコーキスゲの咲く山腹の巻き道を辿ると、AM11:15 最後の水場に到着する。小休止後、森林帯の中、ひたすら胸突き八丁の急坂を登ると、木々の枝越しに前方空高く、雲間から常念岳への稜線が望まれる。PM12:15 常念乗越に登り出る。眼前に、天を突く穂高の峰々を望み、皆歓声をあげる。



常念岳を背景に横通岳を登る



コマクサ



ミヤマダイコンソウ



穂高岳の峰々がひと際高く聳える

常念小屋で昼食後、PM1:30 軽荷で、北に聳える横通岳へ向かう。低木帯を登り出て振り返ると、沸きあがる雲間に常念岳、西に槍、穂高岳の峰々がひと際高く聳えている。中腹から白砂礫帯のジグザグ路を登ると、高山植物の女王コマクサの群落に出会う。PM2:45 横通岳 2767mに全員登頂。山頂からの遠望は効かないが、北に大天井岳が望まれ、西に聳える槍ヶ岳北鎌尾根の後方に裏銀座の山々が連なっている。20分程憩いの後、PM4:00 常念小屋に戻り、泊す。



花崗岩が積み重なった急斜面を登る



常念岳山頂に全員登頂



波打つ稜線が続く蝶ヶ岳への道

29日槍ヶ岳の稜線に笠雲が覆う朝を迎える。AM6:15 準備を整え、荷を背負い、常念岳山頂を目指して登る。花崗岩石がゴロゴロと積み重なった急傾斜の登山路を登る。岩陰にミヤマダイコンソウが所々に咲いている。AM7:45 祠の建つ頂に全員登頂。「バンザーイ!」。山頂からは、上空に夏雲が湧き、360°の大展望とはいかないが、これから目指す、波打つ稜線の彼方に蝶ヶ岳が望まれる。

AM8:05 山頂を出発。花崗岩石の尾根道を降り続け、約 1 時間半程で、ミヤマキンポウゲ咲く森林帯の最低鞍部に到着する。ここで小休憩して、花咲く草地から森林帯を登り続け、槍、穂高を右に望む尾根道に登り出ると、PM12:00 岩峰の蝶槍 2677mに登頂する。ここで、ほっとひと息の昼食後、緑のハイマツが覆う、展望の良い蝶の稜線を歩き、PM1:00 蝶ヶ岳ヒュッテに辿り着く。



花崗岩石の尾根道を降り続ける



最低鞍部から森林帯を登る



槍を背景に蝶ヶ岳稜線に行く



ミヤマキンポウゲ



チシマギキョウ



ハクサンフウロ



キバナシャクナゲ



砂礫に群落するコマクサと槍ヶ岳

一休み後、雲が湧く午後の槍、穂高岳を見納めて、PM1:20 下山を始める。お花畑を抜け、森林帯の急坂を降り続け、PM3:30 まめうち平を経由して、PM5:20 ようやく三股登山口に到着。林道を歩き、800m先の駐車場で待つタクシーに乗り込み、PM6:10 安曇野庁舎駐車場で解散とした。

「安曇野の金字塔常念岳と蝶ヶ岳への稜線は、その穏やかな美しさとは逆の辛い登攀の連続だ。しかし、その登攀を成し遂げてみれば、登山への大きな自信と満足感を与えてくれる登山講習だった。」

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則